

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※ ◎ :警報レベル ○ :注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第23週	第23週	第24週	増減	第23週	第24週	増減	第23週	第24週	増減	第23週	第24週	増減	第23週	第24週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	1539 0.31	19 0.40	7 0.15	▼	5 0.25	6 0.30	△	2 0.40		▽	10 1.00		▽	2 0.15	1 0.08	▽	11406
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	787 0.25	3 0.10	3 0.10		1 0.08	1 0.08			2 0.67	△	2 0.33		▽				146
咽頭結膜熱	3080 0.97	34 1.13	40 1.33	▲	10 0.77	15 1.15	△				23 ◎3.83	22 ◎3.67	▽	1 0.13	3 0.38	▲	310
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	10890 3.45	197 6.57	175 5.83	▼	109 ◎8.38	98 ◎7.54	▼	1 0.33	2 0.67	△	46 ◎7.67	43 ◎7.17	▼	41 5.13	32 4.00	▽	4199
感染性胃腸炎	20784 6.58	327 10.90	275 9.17	▽	134 10.31	104 8.00	▽	13 4.33	8 2.67	▽	125 ◎20.83	106 ◎17.67	▽	55 6.88	57 7.13	▲	3857
水痘	1311 0.42	9 0.30	19 0.63	△	3 0.23	5 0.38	△		1 0.33	△	6 1.00	6 1.00			7 0.88	△	364
手足口病	5026 1.59	11 0.37	8 0.27	▼	9 0.69	3 0.23	▽	2 0.67	5 1.67	△							76
伝染性紅斑	257 0.08	20 0.67	31 1.03	△	1 0.08	1 0.08		4 1.33	5 1.67	▲	15 ◎2.50	23 ◎3.83	△		2 0.25	△	188
突発性発しん	1726 0.55	15 0.50	27 0.90	△	5 0.38	7 0.54	△		2 0.67	△	6 1.00	8 1.33	△	4 0.50	10 1.25	△	474
百日咳	36 0.01		1 0.03	△		1 0.08	△										13
ヘルパンギーナ	1356 0.43	8 0.27	1 0.03	▽	6 0.46	1 0.08	▽	1 0.33		▽	1 0.17		▽				31
流行性耳下腺炎	1592 0.50	13 0.43	6 0.20	▽	5 0.38	4 0.31	▽	1 0.33		▽	7 1.17	2 0.33	▽				405
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	8 0.01																
流行性角結膜炎	605 0.87	1 0.13	2 0.25	△	1 0.25	2 0.50	△										43
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	103 0.22	7 0.70	8 0.80	▲	7 1.75	8 2.00	▲										73
クラミジア肺炎	5 0.01																
マイコプラズマ肺炎	98 0.21	1 0.10	1 0.10		1 0.25		▼		1 1.00	△							93
細菌性髄膜炎	6 0.01																1
無菌性髄膜炎	20 0.04	2 0.20		▽	2 0.50		▽										6

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者		1	1		
腸管出血性大腸菌感染症	患者	1				型別:O157 VT1VT2。
	無症状病原体保有者			1	1	※第23週追加報告1件有り。 型別:O26 VT1 1件、O103 VT1 1件。

<通信欄>

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ											3	2	1		
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
	1														7
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	1	2													3
咽頭結膜熱		6	16	6	2	5	1	1	2			1			40
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	18	8	13	19	22	17	13	17	10	31		5	175
感染性胃腸炎	3	28	58	34	30	30	24	17	15	5	13	12	3	3	275
水痘		1	1		5	2	1	2	1	4	2				19
手足口病			6	2											8
伝染性紅斑			1	2	5	5	11	2		2		3			31
突発性発しん		9	14	2	1	1									27
百日咳								1							1
ヘルパンギーナ							1								1
流行性耳下腺炎					2	1	1		1		1				6

<平成29年5月 月報>

2017年6月21日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～5月	
	4月	5月	4月	5月	4月	5月	4月	5月	4月	5月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	19	18	7	3	11	10	1	3		2	86
	定点当たり	1.90	1.80	1.75	0.75	11.00	10.00	0.50	1.50		0.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	10	1	2	1	2	2	5	2	1	37
	定点当たり	0.60	1.00	0.25	0.50	1.00	2.00	1.00	2.50	0.67	0.33	
尖圭コンジローマ	報告数	1	2	1	1						1	5
	定点当たり	0.10	0.20	0.25	0.25						0.33	
淋菌感染症	報告数	5	3	3	2			1		1	1	16
	定点当たり	0.50	0.30	0.75	0.50			0.50		0.33	0.33	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	5	8	1	2			1	1	3	5	34
	定点当たり	0.50	0.80	0.25	0.50			0.50	0.50	1.00	1.67	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	17	24	8	11		3	2	1	7	9	97
	定点当たり	1.70	2.40	2.00	2.75		3.00	1.00	0.50	2.33	3.00	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数		1		1							2
	定点当たり		0.10		0.25							

<トピックス>

【腸管出血性大腸菌感染症情報】

6月中に、腸管出血性大腸菌感染症が8名(患者4名、無症状病原体保有者4名)報告されています。夏季に多発する感染症ですので、食品を扱う際には、十分に手洗いするとともに、食品の温度管理と十分な加熱、調理器具の消毒を心がけましょう。

1.感染者の内訳 (平成29年第1週からの合計)

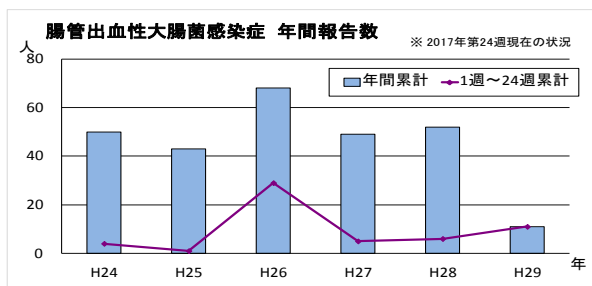
①地区別

村山地区	: 3名
最上地区	: 0名
置賜地区	: 5名
庄内地区	: 3名
計	11名

②型別

O血清型	ベロ毒素型	報告数
O26	VT1	4
O103	VT1	1
O115	VT2	1
O157	VT1VT2	4
OUT	VT2	1
合 計		11

2.年間報告者数



【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎情報】

A群溶血性レンサ球菌感染症の定点当たり報告数が、村山地区と置賜地区で警報レベルとなっています。

・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

警報開始基準値: 8人 警報終息基準値: 4人

・第24週定点当たり報告数

村山: 7.5人 最上: 0.7人 置賜: 7.2人 庄内: 4.0人

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

A群溶血性レンサ球菌による上気道の感染症です。

【症状】2～5日の潜伏期の後、突然の発熱(38℃以上)、咽頭発赤、莓舌(写真1)などの症状が現れます。通常、熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。治療は、抗菌剤が有効です。肺炎などの合併症を防ぐためにも、症状が改善しても医師に指示された期間、薬を飲むことが大切です。

【感染経路と予防法】この病気は、患者の咳やくしゃみ等のしぶきに触れること等で感染しますので、一般的な予防対策(手洗いや咳エチケット等)が大切です。また、咽頭痛がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



写真1: 典型的な莓舌

(国立感染症研究所ホームページより)